

殺虫剤 クロチアニジン粒剤 ダントツ[®]粒剤	農林水産省登録 第 20800 号 (住友化学(株)登録) 性状：類白色細粒 毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称) 有効年限：5 年 包装：1kg × 12, 3kg × 6
有効成分：クロチアニジン・・・・・・・・・・ 0.50%	殺虫剤分類 4A

ダントツ[®]は住友化学(株)の登録商標です。

特 長

- 浸透移行性優れ、カメムシ目、ハエ目、コウチュウ目、チョウ目、バッタ目、アザミウマ目の各種害虫に高い防除効果を発揮します。
- 野菜・花・類のアブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類等の吸汁性害虫に加えて難防除害虫であるマメハモグリバエ等のハモグリバエ類に対して高い防除効果を示します。
- 浸透移行性に優れ、定植時の植穴処理、又は生育期の株元処理で高い防除効果を発揮し、その効果は長期間持続します。
- 有機リン系、カーバメート系、合成ピレスロイド系薬剤に対する感受性が低下した害虫にも高い効果を示します。

適用病害虫名および使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)
	カメムシ類	3~4kg/10a				
稲(箱育苗)	イネミズゾウムシ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植3日前～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	4回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)
		高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50~100g)				
	イネドロオイムシ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g				
		高密度には種する場合は1kg/10a (育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ) 1箱当り50~100g)				
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	1~2g/株	育苗期後半	定植時	株元処理	4回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植時の株元散布は合計3回以内)
		2g/株	定植時		植穴処理土壌混和	
	アブラムシ類	1~2g/株	定植後 但し、収穫前日まで	3回以内	株元散布	
	アブラムシ類 コナジラミ類		育苗期後半	1回	株元処理	
メロン	アブラムシ類 コナジラミ類					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	
メロン	アブラムシ類 コナジラミ類	1～2g／株	定植時	1回	植穴処理土壌混和	4回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)	
	ミナミキイロアザミウマ トマトハモグリバエ	2g／株					
		アブラムシ類	1～2g／株	定植後 但し、 収穫前日まで	3回以内	株元散布	
すいか	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1～2g／株	定植時	1回	植穴処理土壌混和	4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)	
かぼちゃ	アブラムシ類					1回	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内)
にがうり							
うり類 (漬物用、ただし、とうがん、食用へちまを除く)							
とうがん							
食用へちま							
トマト	アブラムシ類 コナジラミ類	1g／株	育苗期	1回	株元処理	4回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)	
	アザミウマ類		育苗期後半				
	アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 アザミウマ類	1～2g／株	定植時	3回以内	植穴処理土壌混和		
	アブラムシ類		定植後 但し、 収穫前日まで				株元散布
	ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類	1g／株	育苗期	1回		株元処理
アザミウマ類		育苗期後半		植穴処理土壌混和			
アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 アザミウマ類		1～2g／株	定植時		3回以内		株元散布
アブラムシ類			定植後 但し、 収穫前日まで				
なす	アブラムシ類 コナジラミ類	1～2g／株	育苗期後半	1回	株元処理		
	アブラムシ類 コナジラミ類 マメハモグリバエ	1g／株	定植時				植穴処理土壌混和
		1～2g／株	定植後 但し、 収穫前日まで	3回以内	株元散布		
	ピーマン	アブラムシ類	1g／株	育苗期後半	1回		株元処理
		定植時	植穴処理土壌混和				
		1～2g／株		定植後 但し、 収穫前日まで	2回以内	株元散布	
キャベツ	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25g／株	は種時	1回	覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する。	3回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は2回以内)	
	アブラムシ類 ネギアザミウマ	3～6kg／10a			播溝処理土壌混和		
		6kg／10a	地床育苗期		株元散布		
	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ ネギアザミウマ	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)当り50g	育苗期後半		セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する。		

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ ネギアザミウマ ネキリムシ類	0.5g／株	育苗期後半	1回	株元処理	3回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は2回以内)
	コナガ アオムシ	2g／株	定植時		植穴処理土壌混和	
		1～2g／株				
はくさい	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25g／株	は種時		覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する。	5回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は2回以内、定植後の株元散布は2回以内)
	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ ネキリムシ類	0.5g／株	育苗期後半		株元処理	
	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	1～2g／株	定植時		植穴処理土壌混和	
	コナガ アオムシ	2g／株				
	ブロッコリー	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25g／株		は種時	
コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ		0.5g／株	育苗期後半		株元処理	
コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ ネギアザミウマ		セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)当り50g				
アブラムシ類		1～2g／株		定植時		植穴処理土壌混和
コナガ アオムシ ハイマダラノメイガ		2g／株				
はなっこりー		6kg／10a	は種時	作条処理土壌混和	3回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)	
だいこん	アブラムシ類	3～6kg／10a		播溝処理土壌混和		
かぶ こまつな		6kg／10a				
しゅんぎく	アブラムシ類 ハモグリバエ類					
ほうれんそう	アブラムシ類					
だいず	アブラムシ類 フタスジヒメハムシ					
あずき						
えだまめ						
なばな		1～2g／株		定植時	植穴処理土壌混和	1回
チンゲンサイ	アブラムシ類	6kg／10a		は種時	播溝処理土壌混和	4回以内 (は種時及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)
	定植時		作条処理土壌混和			

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
レタス	アブラムシ類	2g／株	定植時	1回	植穴処理土壌混和	5回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は2回以内、定植後の株元散布は2回以内)
非結球レタス		0.5g／株	育苗期後半		株元処理	
		セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)当り50g			セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する。	
		0.5g／株			株元処理	
みずな		6kg／10a	は種時	播溝処理土壌混和	4回以内 (は種時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)	
ねぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ		植付時	4回以内	作条処理土壌混和	4回以内 (定植時までの処理は1回以内)
	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ タネバエ				植溝処理土壌混和	
	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ		3～6kg／10a		収穫3日前まで	
	ネダニ類	6kg／10a	4回以内			
あさつき わけぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	3～6kg／10a			4回以内	
らっきょう	ネギアザミウマ ネダニ類	6kg／10a	収穫21日前まで	2回以内	2回以内	
くわい	アブラムシ類		収穫7日前まで	3回以内	湛水散布	3回以内
ばれいしょ		3～6kg／10a	植付時	1回	植溝処理土壌混和	4回以内 (植付時の土壌混和は1回以内、植付後は3回以内)
かんしょ	コガネムシ類 トビロヒョウタンゾウムシ	6～9kg／10a	植付前		作条処理土壌混和	3回以内 (植付前の処理は1回以内、植付後は2回以内)
	コガネムシ類				全面処理土壌混和	
	アブラムシ類	6kg／10a	育苗期		株元処理	
やまのいも	コガネムシ類	6～9kg／10a	植付時		作条処理土壌混和	4回以内 (植付時までの処理は1回以内、植付後は3回以内)
いちご	アブラムシ類	1g／株	定植時		植穴処理土壌混和	1回 4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
セルリー		2g／株				
れんこん	クワイクビレアブラムシ	3kg／10a	植付時	3回以内	植溝処理土壌混和	4回以内 (植付時までの処理は1回以内、植付後は3回以内)
		4～6kg／10a	収穫7日前まで		湛水散布 無人航空機による散布	
じゅんさい	トラフスリカ	4kg／10a	収穫前日まで	2回以内	湛水散布	2回以内
さとうきび	ハリガネムシ類	4～6kg／10a	植付時	1回	植溝処理土壌混和	7回以内 (植付時までの処理は1回以内、植付後の粒剤の処理は3回以内、水和剤の処理は3回以内)
	メイチュウ類 アオドウガネ	6～9kg／10a		培土時	株元処理土壌混和	
	カンジャコバナガカメムシ シロスジオサザウムシ		収穫30日前まで			
	カンジャコバナガカメムシ カンジャワタアブラムシ メイチュウ類					
かんきつ(苗木)	ミカンハモグリガ	10～20g／樹	育苗期		3回以内	
樹木類 (げっつを除く)	コガネムシ類	6～9kg／10a	生育期	5回以内	6回以内	

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
げっきつ	ミカンキジラミ	30～40g／株	発生初期	6回以内	生育期株元散布	6回以内
	コガネムシ類	6～9kg／10a	生育期	5回以内	株元散布	
きく	アブラムシ類	6kg／10a	発生初期	4回以内	生育期株元散布	4回以内
		1～2g／株				
	マメハモグリバエ アザミウマ類	2g／株				
花き類・観葉植物 (きくを除く)	アブラムシ類	6kg／10a				
		1～2g／株				
	アザミウマ類	2g／株				

使用上の注意事項

- 本剤を無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意を守ってください。
 - 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施してください。
 - 散布にあたっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - 事前に本剤の物理性に合わせて散布装置のメタリング開度を調整してください。
 - 本剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該圃場周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整してください。
 - 水源池、飲料用水等に本剤が飛散・流入しないように十分注意してください。
- キャベツ、はくさい、かぶ、こまつな、チンゲンサイに使用する場合は、葉害が生じるおそれがあるので使用量を厳守してください。
- キャベツ、はくさいのは種時に使用する場合は、葉害が生じる場合があるので覆土後に使用し、覆土前の使用はさけて下さい。
- 薬剤を株単位で使用する場合には、10a当り25kgを超えないように適用の範囲内で単回使用量を調整してください。
- 稲(箱育苗)に使用する場合は次の注意を守ってください。
 - 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、そのまま田植機にかけて移植する。
 - 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg／10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整して下さい。
 - 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには葉害を生じるおそれがあるので注意してください。
 - 誤って過剰に使用したり、本剤使用後4日以上移植せずに育苗箱中におくと葉枯れなどの葉害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を守ってください。
 - 本田の整地が不均整な場合は葉害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意してください。移植後は直ちに入水し、水深2～3cm程度を保ち、浅水はさけてください。
- 本剤を水稻の本田に使用する場合、3cm前後の湛水とし、田面に均一に散布し散布後4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 本剤をくわい、れんこん、じゅんさいに使用する場合、田面に均一に散布し散布後4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- かんきつに使用する場合は、今期に収穫の見込みのない苗木に使用し、散布後軽く散水してください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特にはじめて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

安全使用上の注意事項

- 蚕に対して影響があるので、周囲の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
 - 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用しないでください。
 - 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。

- マルハナバチを利用する場合、本剤使用后20日目ごろより後に導入してください。ただし、影響日数は環境条件により多少変動する場合がありますので注意してください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないように注意して使用してください。
- 空中散布または無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池に飛散しないよう特に注意してください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用后(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域内に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

保管に関する注意事項

- 直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。